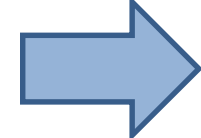


○ 在宅医療・介護連携推進事業の各市町の取組み等について

- 1 在宅医療と介護の連携事業の各取組や、地域ケア会議等により把握した各市町の重点的に取組む必要のある事項等について、市町の実情を踏まえ工夫して取組を進めているところ、困難を感じているところについて

春日井市	<ul style="list-style-type: none"> 医療従事者と介護従事者の両者が、情報共有の必要性に対する理解が進み、市医師会が FAXに使用する統一様式として医師とケアマネジャーの情報共有ツールを作成した。 しかし、市内の全ての医療従事者と介護従事者が、個々に信頼関係を構築できていない場合もあるため、情報共有ツールを使用する中で気持ちのすれ違いや取り違えにより関係が悪化することがあり、個々の信頼関係を構築するためには、まずは顔の見える関係を構築した上で情報共有ツールの活用を推進する必要がある。 本市においては、今年度から医師とケアマネジャーを中心とする多職種連携研修会を日常生活圏域単位で4区域に分け、10月に各地区で開催することとし、地域にある多職種の顔の見える関係づくりを推進していくこととしている。
小牧市	<ul style="list-style-type: none"> 医療・介護連携推進事業については、研修会・勉強会等を通じた顔の見える関係づくりや、地域住民が主体となる取組みなどへの医療・介護専門職の関わりの機会を設ける中で、在宅医療・介護の必要性の普及啓発や、連携強化を図っているところであるが、それぞれの法人として、本事業に対する方針等が異なることにより、本事業への関わり（参加・派遣等）が、深く出来ない場合があり、困難を感じている。 また、ICTの活用についても、同様であり、市として、情報共有に向けた基盤は整備したものの、職種によって登録率が低い状況にある。
犬山市	<ul style="list-style-type: none"> 平成25年度より、医療と介護の連携を推進する目的で多職種連携会議（現：いぬやまあんしんの会）を開催し、災害時の対応や栄養・嚥下における多職種連携等様々な議題でグループワークを実施し、課題抽出を行ってきた。 平成30年度からは、尾北医師会圏域の市町が合同でICTを活用した連携に着手しており、医療職と介護職での顔の見える関係づくりやネットワーク構築は進められている。 また、医師会が一市単独ではないため、他市町との情報共有が必須であるが、尾北医師会地域ケア協力センターに事業委託を行い、中核機関としての機能を担っていただいていることから、医師会管内市町の情報共有はできている。 課題としては、連携体制を構築できている医療機関が限定的であること、庁内関係課との連携体制の構築に至っておらず、スポット的な関わりに留まっていることから、効果的・効率的に課題解決に至っていないことが挙げられる。
江南市	<ul style="list-style-type: none"> 現在、本市の地域ケア会議は6部会で構成しており、在宅医療・介護連携事業について「在宅医療部会」で協議している。また、今年度からは2市2町（犬山市・江南市・大口町・扶桑町）の広域で、在宅医療・介護連携推進事業を尾北医師会に委託し、実施している。 在宅医療部会では、事業に関する課題を抽出し、広域で取り組むべき課題と単市で取り組むべき課題を整理し、今年度の在宅医療・介護連携推進事業をスムーズに開始したところである。 また、昨年度、在宅医療部会の委員の企画・運営により、専門職種の連携交流会を実施した。今年度も「顔の見える関係づくり」を目的に交流会を実施し、職種間のさらなる連携を図る予定。
岩倉市	<ul style="list-style-type: none"> 在宅医療と介護の連携事業ではネットワーク会議等を実施、地域ケア会議でも地域ケア会議支援という形で市内の介護支援専門員から協力をいただいて困っているケースの検討等を実施しているが、重点的に取り組むべき事項を上手に把握できておらず困難を感じている。
大口町	<ul style="list-style-type: none"> 在宅医療・介護の連携事業については、平成30年4月から、尾北医師会地域ケア協力センターに委託をし、今年度は ①切れ目のない在宅医療と介護の提供体制構築に向けて在宅医療紹介システムの整備 ②在宅における緩和ケア、看取り支援量・質的向上をはかる③アドバンス・ケア・プランニング（住民における事前の意思表示）を医療・介護専門職と地域住民に普及することを重点目標に、医師会と一緒に取組んでいる。 また、町内の介護事業所との定期的な話し合いの場はあるが、医師、歯科医師、薬剤師との連携の場を持つことが難しく、多職種連携全体会は昨年までは年1回開催し、今年度は2回開催を予定しているが、地域ケア会議がケース会議に留まっているため、地域課題を共有し、話し合う場にはなっていない。
扶桑町	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度から地域包括ケアシステムの構築に向けた「在宅医療・介護連携推進会議」を立ち上げた。現在、町としての課題を整理している段階であり、現状における成功事例や困難事例の回答までには至っていない。他市町の取組事例を伺いながら今後の施策に繋げていきたい。

共通していること

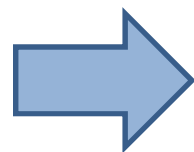


- 多職種間の連携推進のため、顔の見える関係づくりが重要として取り組んでいる。
- 地域ケア会議で困難ケースの検討に留まり、地域課題の把握検討に至っていない。（岩倉市・大口町）

- 2 在宅医療と介護の連携において、市町や関係機関から出ている市町を超えて広域的に調整や検討が必要だと考える事項とその理由について。
また、二次医療圏域で情報共有を希望する事項や必要だと考える事項について。

春日井市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門的な治療やリハビリを目的に市外の病院に入院又は通院することがあるが、相談窓口が不明な病院もあるため、二次医療圏域内にある各病院の入退院時や通院患者に関する報告等について、病院毎の相談・連絡窓口及び連絡方法を一覧として共有することが必要である。 ・ また、ICTを活用した情報共有について、医療機関に対して積極的な利用の推進とともに、市域を超えてICTの活用ができるよう、市町村間の協力・協定締結等を支援していただきたい。
小牧市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療・介護は、市内だけで完結するケースだけでなく、近隣市町との連携が必要不可欠であることから、ICTを活用し、市域を超えた連携を推進したい。 ・ また、本市では、小牧市民病院を中心に、入退院時における病院とケアマネジャーとの情報共有を図ることを目的として「連携シート」を活用し、情報共有を図っているところであるが、上記のとおり、こうした連携シートについても、医療圏内で、統一化し、共同運用を図っていきたいと考えている。 *小牧市在宅医療・介護連携推進協議会において、医療（医師、病院）・介護関係の委員から、統一化を目指せないかとの意見をいただいている。
犬山市	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICTを活用した情報共有 対象者についての情報を関係者の認識を統一し、適切な対応へとつなげるためには、情報の一元化が必要であるため。 ・ 退院時の連携方法（様式・ルール） 自治体ごとに様々な様式やルールが存在することで、医療機関や介護事業所等の関係者が対応する際に負担が大きく、連携体制の構築がしにくい状況であることから、統一様式・ルールにすることで、関係者の負担を軽減できるため。
江南市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住民の主な生活圏を基本に、地域包括ケアシステムが構築されることが必要と考え、今年度から在宅医療・介護連携事業を2市2町の広域で尾北医師会へ委託し、実施している。地域包括ケアシステムの構築には、職種間の情報連携が重要であることから、ICTによる情報共有ツールの活用が始まりましたが、現在は、登録参加者の増加と活用のための啓発が課題となっている。 ・ 二次医療圏域内で情報共有を必要とする事項は、災害時の連携と考えている。 災害規模にもよるが、局地的な災害（豪雨被害）の発生により、避難した在宅要介護者の支援方法について、医療圏内で連携体制を整備する必要があると感じている。 また、将来的には、震災などの大規模災害に対して、医療圏域を超え県圏域、場合によっては県圏域を超えた連携についても考える必要があると感じている。
岩倉市	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICTを活用した情報共有ツールの活用について、広域での検討や調整が必要だと考えます。岩倉市のような市域の小さい自治体であれば近隣市町の医療機関を受診することも大いに考えられるため、情報共有ツールの広域的な連携が必要と考えるためです。
大口町	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入退院時の情報共有の様式やルールについて、昨年、尾北医師会地域ケア協力センター内主導の退院時連携ワーキング部会でも検討していたが、平常時の連携がまだ不十分であるため、入退院時までの情報共有には至らない現状が表出している。 住民は、様々な医療機関を選択するため、二次医療圏域で調整や検討ができると効果的だと思う。
扶桑町	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICTについて、医師会の圏域内において効果的なツールとして導入されているが、多職種間の交流会から出た意見ではまだまだ情報共有が不十分であるとのこと。広域的な調整については、現時点において未検討。

共通していること



○市町を超えた情報共有

- (1) ICTを活用した情報共有の連携（春日井市、犬山市、小牧市、岩倉市）
- (2) 入退院時の情報共有のための連携様式・ルール・連絡窓口一覧等（春日井市、小牧市、犬山市、大口町）